

高身長による悩み

開院 4 年たち背が高すぎるなんとかしてくれと訴える方を多数診察しました。Marfan 症候群、Sotos 症候群等特別な疾患の兆候もなく診察あるいは内分泌検査でも特別な異常のない方です。多くの日本人はすこしでも背が高い方がよいと思っていますから、羨ましい悩みともいえます。ところが本人にとっては背が高い事を隠すため、思春期に入ると常に俯き加減でいる等生活に支障が出ていると主張します。多くは女性の悩みで、私は広く海外に目を向ける様に話します。すなわち身長が+2SD（標準偏差）以上高い場合を高身長とすると成人日本女性では 170cm 弱程度ですが、オランダでは 184cm その他ヨーロッパ諸国では 180cm 米国では 176cm となり、日本で高身長の悩みを抱える方も海外では大部分普通の大柄で済むこととなります。

とはいえ海外でも昔の高身長で悩む女性は多くヨーロッパ、米国では 1950 年ごろから女性ホルモンの大量療法を行い成長板軟骨の成熟消失招き身長増加を早期停止させる治療が行われてきました（以前の日本人では治療希望し治療した方は稀）。最大で 10cm 程度最終身長を低下させることができます。この治療中は高容量女性ホルモン投与に伴う体重増加、ニキビ、乳汁分泌、血栓症などの合併症がおこることがあります。1990 年ごろからこれらの治療を受けた方の妊娠出産障害を示す報告が多数出てきました。結論として、高容量女性ホルモン投与を受けた方は卵巣の早期老化を招き卵胞形成に障害が起こり不妊のリスクが高まる事がわかりました（概ね 2.5 倍）。すなわち高容量女性ホルモン投与を最終身長抑制に行うべきでないと判断されます。最近は価値観の多様化で海外では高身長で悩む女性は減少しているとされています。

逆に中枢性思春期早発症の性腺抑制療法にはこの様な妊孕性に関する晩期障害は認められておらず、私が以前治療した患者さんが妊娠出産の報告をいくつか受けております